

中央大学創立125周年記念展示

学びのたから 中央大学の起源・絆・記憶

2010年11月13日(土)～20日(土)／中央大学多摩キャンパス9号館(クレセントホール)2階

「学びのたから 中央大学の起源・絆・記憶」と題して11月13日から20日まで開催した記念展示は、会期中1,000名を超える方々にご来場いただきました。

13日の式典当日は、午前10時からオープニングセレモニーを行い、久野修慈理事長、永井和之総長・学長、大久保信行常任理事(創立125周年記念式典行事実行委員会委員長)、林茂樹常任理事

(史料委員会委員長)、創立者ご子孫代表菊池武範氏によるテープカットに続き、本学役員の他、記念式典にお招きしたミドルテンブルおよび海外協定校の代表者の方々にご内覧いただきました。

会場となった9号館では、まず創立50周年から同100周年までのイメージ映像、創立間もない英吉利法律学校の洋館が写ったパノラマ展望写真で来場者を

お迎えし、続いて18人の創立者の肖像が並んだ第1部「中央大学の起源」、箱根駅伝での中大アスリートたちの奮闘を物語る第2部「赤い襷の絆」、最先端のCG技術を駆使した第3部「キャンパスの記憶」、各展示コーナーに19世紀後半の貴重資料から21世紀にふさわしいインタラクティブアート「光と記憶のジオラマ」を配して好評を博しました。

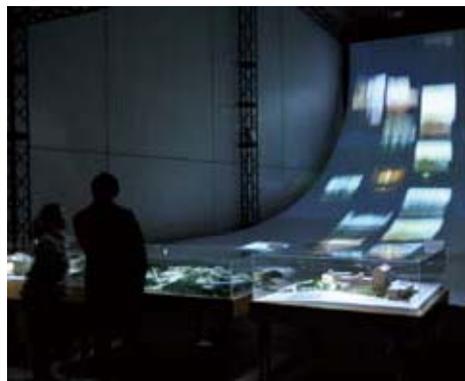
このたびの記念展示でお世話になりました関係各位ならびに遠路ご来場くださいました皆さまに心から厚く御礼申し上げます。



第1部 中央大学の起源
創立者の肖像グラフィックと草創期の貴重資料



第2部 赤い襷の絆
中央大学陸上競技部のアスリートたちの奮闘を物語る箱根駅伝関係資料



第3部 キャンパスの記憶
インタラクティブアーティスト松尾高弘氏制作・演出による「光と記憶のジオラマ」

中央大学創立125周年記念

中央図書館企画展示
法学百科事典コレクション

2010年10月4日(月)～11月30日(火)／中央大学多摩キャンパス中央図書館2階

図書館では年2回、蔵書紹介を兼ねた企画展示を行っていますが、今回は創立125周年記念事業で購入した「16～19世紀ヨーロッパ法学百科事典コレクション」を展示しました。

このコレクションは、16世紀初頭から19世紀半ばまでの三百数十年間にわたって欧州各地で編纂された法学百科事典を集積した全86タイトルの一大コレクションで、後期インクナブラ(16世紀前半の印刷物)に該当する5点を含む極めて貴重なものです。今回の展示は10月9日(土)に開催された図書館主催「国際シンポジウム」や11月13日(土)の本学創立125周年記念式典に参加の方々にもご覧いただき、好評のうちに終了しました。

中央大学創立125周年記念 経済学部

湧水を中心とした多摩キャンパスの生態系保全と
ビオトープの確立 — 第3回シンポジウム／講演会 —

2010年11月13日(土)／中央大学多摩キャンパス8号館

経済学部では、キャンパス内の自然の湧水に着目し、ビオトープとして保全・再生することにより生態系の復元を手がけます。この企画では、水量の豊富な湧水地を2カ所選び、ビオトープとして整備し、維持し続けます。

記念行事の一環として、多摩丘陵の自然保護に関わり続けてきた方々を講師としてお招きし、多摩丘陵の自然史をテーマとした連続シンポジウムを開催し、学生や学員、地域社会に向け多摩キャンパスの自然環境をアピールしてきました。

式典当日は連続シンポジウムの最終回(第3回)となり、保全生態系の分野で著名な鷺谷いづみ教授(東京大学大学院農学生命科学研究科：右写真)による講演

会「生物多様性と自然再生」を開催しました。鷺谷教授は、先月名古屋で開催された cop10 の論点を紹介しながら、生物多様性を維持することの重要さと水系の保全との関連などについて説明し、質疑応答も活発に行われました。



中央大学創立125周年記念

大メコンプロジェクト国際シンポジウム

2010年8月27日(金)／ハノイ貿易大学・ハノイ国民経済大学(ベトナム・ハノイ市)

8月にベトナム・ハノイで開催された国際シンポジウムは、グローバルな視点から世界が直面する課題に取り組む「中央大学学術シルクロード」構想の一環として、メコン川流域諸国の協定大学や関係団体と協力してアジアの人材育成と研究交流をめざすものです。今回は、本学永井学長も出席し、ハノイ国民経済大学(NEU)とハノイ貿易大学(FTU)の2つの会場で同時開催となりました。

午前中から「ベトナムの裾野(部品)産業の育成」をテーマに行われたハノイ貿易大学(FTU)会場では、中央大学、ハノイ貿易大学のほか、ハノイ商工業局、JICA(国際協力機構)、VJCC(ベトナム日本人材協力センター)、世界政治経済研究所から15名の報告者があり、参加

者は両大学の研究者のほか、学生を含めて延べ100名となりました。本学からは、経済学部・西端則夫教授ゼミからの学生参加がありました。質疑応答では、日本とベトナムの大学関係者、経営者、政府関係者間で活発な討論が行われました。

午後からはハノイ国民経済大学(NEU)で、「緑の経済回廊と地球環境開発(生態村)」をテーマにシンポジウムを開催、本学の緒方教授をはじめ、ベトナムの中央経済管理研究所前所長、天然資源環境省研究所(ISPONRE)副所長、ハノイ国民経済大学環境学部長、JICAハノイ・チーフアドバイザー、生態経済研究所研究員の6名により報告が行われました。参加者は、現地の大学や政府の研究者のほか、ハノイ国民経済大学から多

数の学生が参加。本学から参加した緒方教授のゼミ(経済学部、FLP)、法学部・ヘッセ教授のゼミ等の学生も含め、会場の収容定員250名を超える参加者となり、質疑応答では活発な意見交換、討論が行われました。シンポジウムの模様はベトナムのテレビ、ベトナムVTV1でも放映され、前出のISPONREとの共同研究の課題となりました。



ハノイ国民経済大学でのシンポジウム

中央大学創立125周年記念 学生企画

中央大学対早稲田大学 硬式野球交流戦

2010年8月31日(火)／明治神宮野球場

8月31日に、中央大学VS早稲田大学の硬式野球交流戦が神宮球場で開催されました。普段リーグ戦では対戦することのない、東都大学野球連盟の本学と、東京六大学野球連盟の強豪校である早稲田大学との伝統校同士の熱い試合となりました。

開会式では、校友会体育連盟委員長関良子さん、永井和之総長・学長の挨拶のあと、久野修慈理事長が始球式を行いました。閉会式では、両校の監督・主将、久野理事長の挨拶のあと、最後はグラウ

ンドで両校の選手を交えての記念撮影が行われました。

なお、10月に行われたプロ野球ドラフト会議で、この日登板した両大学の投手(下記参照)のうち、本学澤村投手を含め3選手が1位指名を受けており、レベルの高い投手戦となりました。

結果は残念ながら0-4で本学の敗戦となりましたが、猛暑日にもかかわらず、大勢の方々にご来場、ご声援をいただきました。誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。



〈早稲田〉先発・大野(健)―塚田―福井―大石
〈中央〉先発・澤村―上松―鍵谷―渡邊―井澤
写真は本学先発の澤村投手。



『Hakumonちゅうおうー2010年125周年記念号』
オンライン版で詳細記事をご覧ください。

中央大学創立125周年 学生企画

記念レガッタ

2010年11月21日(日)／
戸田オリンピックボートコース

11月21日、秋晴れの戸田漕艇場で、中央大学創立125周年記念レガッタ(ボート競技)が行われました。学生に加え、学長をはじめ父母、OB・OG、教職員の参加も多く、この日の選手は約240名。風を切って水上を進む爽快感は格別で、練習を積んできたチームも、初めてボートを漕いだチームも、存分に競技を楽しみました。来年も学内レガッタ開催を予定しています。今回チャンスを逃した方もぜひご参加ください。



125周年記念レガッタ、ボート乗降場付近の様子
写真提供:木村嘉夫氏(埼玉父母連)

中央大学学生歌『惜別の歌』作曲者 藤江英輔氏(昭和25年法卒)が語る その生い立ち

2010年10月6日(水)／中央大学多摩キャンパス9号館(クレセントホール)

中央大学学生歌として卒業式で歌われている『惜別の歌』の作曲者、藤江英輔氏の講演会(中央大学・学生有志の会主催)が10月6日、多摩キャンパス9号館で開かれました。

藤江氏は昭和元年生まれ。本学法学部を昭和25年に卒業後、新潮社に入社、『週刊新潮』『小説新潮』の編集に携わり、広告局長を最後に退職されました。

講演で藤江氏は、昭和19年当時、中大予科の学友とともに勤労動員で通っていた板橋の陸軍造兵廠で、召集令状を学友に手渡す役目を負ったことを紹介し、「いや、つらかったですね。あの別れは」と当時を述懐。その時、一緒に働いていた東京女子高等師範の女子学生から手渡された島崎藤村の詩集『若菜集』に収められた『高樓』に、メロディーをつけて、『惜別の歌』が生まれたことを当時を思い起こしながら語られました。

「いつの間にかそれが、召集令状を受け取った学友たちを送る送別の歌になった」という『惜別の歌』は、昭和26年に中央大学学生歌として公認され、その後、歌声喫茶で歌われるようになり、36年に小林旭が歌ったレコードが大いに売れて、一般化しました。

講演会では最後に、藤江氏が自ら指揮をとるなか、参加者全員が音楽研究会吹奏楽部と男声合唱部の演奏と歌声に合わせて、『惜別の歌』を歌い、別れを惜しみながら会を締めくくりました。

『Hakumonちゅうおう—2010年125周年記念号』オンライン版で詳細記事をご覧ください。



『Hakumonちゅうおう』オンライン版…… www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/hakumon

16～19世紀ヨーロッパにおける法知識の形成とその伝達

2010年10月9日(土)／中央大学多摩キャンパス1号館

去る10月9日、多摩キャンパス1号館において創立125周年記念事業で図書館が購入した「16～19世紀ヨーロッパ法学百科事典コレクション」をテーマとした国際シンポジウムが開催され、雨天にもかかわらず約60名近い参加者を集め、盛会のうちに終了しました。

シンポジウムは見市図書館長の開会宣言、永井総長・学長の挨拶に引き続き森法学部准教授の司会進行の下、プログラ

ムに沿って進められました。

4名の講演者の中でも、本シンポジウムのメインゲストとも言えるクニューテル教授は、欧州におけるローマ法受容史と法学百科事典の歴史を概観しながら、法学事典が法実務家のための必須のツールであることを明らかにし、本コレクションに対して「有益である。そして、大変な資産である。」という言葉で最後を

締めくくりました。

3時間以上の長時間におよぶ催しでしたが、125年前に本学の創立者たちがめざした「学問の実地応用」がヨーロッパ法学においてどのように形成されたか、またそれを資料的に検証できるコレクションを本学図書館が収集したことの重要性を参加者一同でかみしめつつ散会となりました。



クニューテル・ボン大学名誉教授

プログラム	
「Juris Lexicology and Lexicography of Ius Commune」 (法律語彙およびユース・コム・ネの法律辞書学)	津野 義堂 (本学法学部教授)
「トピックマップによる図書内知識の関連付けと活用促進支援」	内藤 求 (京都大学客員准教授)
「変遷する時代の中の法学レキシコン：過去と現在の宝庫」	ロルフ・クニューテル (ボン大学名誉教授)
「Albericus de RosateとAlphabetum iuris：中世後期の法学において口頭で話すこと、文字で書かれていること、そしてアルファベット順にはどのような意味があるか」	ヨッヘン・オットー (弁護士・法学博士)

中央大学創立125周年記念 法律系4部門合同・連続公開シンポジウム

英吉利法律学校の125年 ―現在、過去、そして未来―

2010年11月6日(土)～7日(日)／中央大学駿河台記念館

2010年11月6日、7日の2日間にわたり、駿河台記念館において、中央大学創立125周年記念行事の一環として「法律系4部門合同連続シンポジウム 英吉利法律学校の125年 ―現在、過去、そして未来―」(実行委員長・井上彰法学部教授)が開催されました。英吉利法律学校と法学の125年間の発展を明らかにした上で、グローバル化が進む中で将来を展望することができるよう、4つのテーマを過去から未来へ向けて配置し、各部門が共同実施した本企画は、延べ200名以上の参加者を得て盛会のうちに終了しました。

各セッションのテーマと海外ゲストは、第1「創立期の法学教育(担当:通信教育部)」=デイビッド・サイブ(ボストン大学教授)、クレア・ミスキン(ミドルテンブル法学院マスター)、第2「現代の法曹養成と法学教育(同法科大学院)」=マイケル・コーパー(オーストラリア国立大学法学部長)、傅華伶(香港大学法律学科長)、第3「日中間における比較法研



究の今後の展望(同法学部)」=王成栋(中国政法大学教授)、齊延平(山東大学法学院長)、第4「グローバル時代の法律学・国境を越える法律問題(同日本比較法研究所)」、チエリー・ルヌー(ポール・セザンヌ=エクス・マルセイユ第3大学教授)、ブリギッテ・ターク(チューリヒ大学教授)、ヘニング・ローゼナウ(アウグスブルク大学教授)、バリー・ライダー(ケンブリッジ大学教授=書面参加)です(登壇順)。また、学内からは、多くの教職員の協力・参加を得て、まさに「4部門合同」にふさわしい2日間となりました。

中央大学創立125周年記念

経済学部インターンシップ体験報告会

2010年11月27日(土)／中央大学多摩キャンパス8号館

経済学部では「インターンシップ体験報告会」を11月27日に開催しました。2010年度に経済学部の授業科目「インターンシップ」を履修した全15コースの学生がそれぞれの学修成果を発表し、会場は大きな拍手に包まれました。

また、創立125周年記念の特別企画として、「私のテレビ人生～中央大学で学んだこと～」をテーマに、本学卒業生で株式会社テレビ朝日代表取締役社長、早河洋氏による講演会を同時開催しました。実体験に基づく臨場感あふれるお話は、これから社会へと羽ばたく学生にとって大きな力となりました。



キャンパスとモノレールを125周年記念色に! 「125周年中大号」と学内サイン

創立125周年記念の年を迎えるにあたり、本学のすべてのキャンパスをはじめ、各附属学校に創立125周年の横断幕を掲示しました。本学のスクールカラーである、白、中大ブルー(群青)、中大レッド(金赤)の3色を配し、中央大学の草創期から現在、さらに未来へのつながりを表現。キャンパスを訪れる卒業生だけでなく、4月の入学式では、新入生が掲示を背に写真を撮る姿も多く、中大生としてのスタートを記念の年に迎えるメモリアルサインとなりました。

また、10月下旬から11月末まで、多摩都市モノレールの協力のもと、車体

ラッピングを施した「創立125周年中大号」を運行しました。車内には中央大学の歴史や学生の活躍など、さまざまなポスターを掲示。学生、卒業生のみならず、地域の方々にも中央大学に親しみを持っていただくきっかけとなりました。



中大リレーマラソン — ALL CHUO MINDの醸成 —

2010年11月6日(土)／中央大学多摩キャンパス内周回コース

11月6日、創立125周年記念企画として中大リレーマラソンが開催されました。FLP スポーツ・健康科学プログラム河田弘道ゼミが、「中央大学に関わる全ての人たちの愛校心や連帯感(ALL CHUO MIND)を醸成するスポーツイベント」をコンセプトに企画したこの大会。5～10人のチームで、多摩キャンパス内のコース(一周約1.6km)を5時間でどれだけ走ることができるのか、というルールで行われました。ランナー登録を開始した6月から、締め切った9月末まで、集まったチーム数は100を超え、50名以上のボランティアの方々にも集まっていただきました。結果は、1位のチームは57周、走行距離は91.2kmになりました。

心配だった天気にも恵まれ、当日は絶好のマラソン日和。ランナーの方々は、はじめは多摩キャンパス内の険しい周回

コースに驚いていましたが、走り終わったときには、やりきったことによる爽快感で皆笑顔になっていました。また中継所付近のステージでは、〇×クイズ大会、お笑いライブ、アカペラサークル・チアリーディング部・プラスコア部の公演など、「走る」以外にも楽しめるイベントを開催し、会場は大いに盛り上がりました。



写真提供:北川外志廣氏

中央大学創立125周年記念国際シンポジウム ビジネススクール主催

「これからの中国ビジネスはチャンスか、リスクか!？」

— 新段階にきた中国市場とグローバル戦略経営 —

2010年11月27日(土)／グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)

「日本発 戦略経営」を発信する中央大学ビジネススクールが、中央大学創立125周年記念国際シンポジウム「これからの中国ビジネスはチャンスか、リスクか!？」— 新段階にきた中国市場とグローバル戦略経営 — を開催しました。

このシンポジウムは、講演とパネルディスカッションの2部構成で、巨大な中国市場における日本企業の「中国経済のネクストステージ」戦略について、企業の戦略経営を担うビジネスパーソンの方々に理解を深めていただく企画でした。

中央大学管弦楽団第64回定期演奏会 における創立125周年記念合唱団による ベートーヴェン「第九」演奏

2010年12月10日(日) 18:30～／
ミューザ川崎シンフォニーホール(神奈川県川崎市)

12月10日、ミューザ川崎にて中央大学管弦楽団第64回定期演奏会が行われ、ベートーヴェンの交響曲第9番「合唱付き」が、中央大学創立125周年記念合唱団をはじめとする合同合唱団によって演奏されました。

当合唱団はその名称のとおり、本学の創立125周年を記念して特別に結成された合唱団です。メンバーは在学生の父母、学員、学内教職員等、本学に関係する幅広い方々から成り、それぞれが多忙の中、週末の時間を割いての練習になりました。

創立125周年の年を、このように盛大な記念行事で締めくくることができ、また、本学が文化活動においても更に発展していく第一歩を踏み出したことをご報告いたします。

講演	
特別講演	「チャイナ・アズ・ナンバーワン」 関 志雄 野村資本市場研究所 シニアフェロー
基調講演	「中国にコマツウエイを —コマツの中国戦略—」 茅田 泰三 コマツ 専務執行役員・中国総代表、小松(中国)投資有限公司 董事長
パネリスト	
	関 志雄 (特別講演者)
	茅田 泰三 (基調講演者)
	陳 建安 復旦大学経済学院 教授
	吉村 明郎 森ビル(上海)有限公司 社長、上海環球金融中心有限公司 社長
	土橋 謙 NTTデータ パブリック&フィナンシャル事業推進部グローバル推進部長 NTT DATA (CHINA) Co., LTD.(恩梯梯数据(中国)有限公司) 董事長
コメンテーター	
	丹沢 安治 中央大学ビジネススクール 教授
モデレーター	
	服部 健治 中央大学ビジネススクール 教授

中央大学創立125周年記念出版

『英吉利法律学校覚書 — 明治前期のイギリス法教育』

山崎利男 著 中央大学出版部 2010年11月4日刊行 定価:2,100円(税込)
お問合せ先:中央大学出版部(電話:042-674-2351)



中央大学のルーツは、1885（明治18）年、神田錦町に開校した英吉利法律学校です。この学校はわが国最初の法律学校のひとつで、諸法典がまだ制定されていなかった当時、30歳前後の若い講師たちは、かれらが修得したイギリス法を熱心に講義しました。30科目を超える講義は速記され、講義録として通信教育の学生にも配布されました。この講義

録は講師達が高度な内容を学生に理解できるように苦心して教えた熱意に満ち溢れたものでした。そこでは西欧の近代法がどういうものか、法がどう発展してきたか、また「法の実地応用」を重視して、裁判をどう行うかについても、丁寧に教えています。

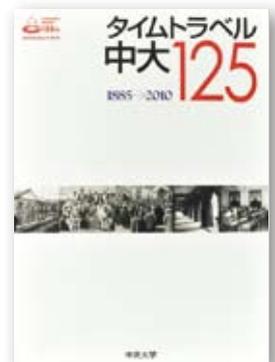
学校には全国から学生が集まり、かれらは3年間で新しい法律の知識を身につけ、弁護士、判事、検事、官吏、新聞記者として多くの分野で活躍し、日本の司法の発展と近代国家の建設に貢献しました。この書は英吉利法律学校でのイギリス法教育の実態を解明し、その背景として明治前期の法律学と法学生の実情を詳細に描いています。母校黎明期の若き講師達と学生の熱情に強い感銘を受ける貴重な書となるに違いありません。

中央大学創立125周年記念出版

『タイムトラベル中大125』

監修:中央大学史料委員会専門員会
編集:中央大学入学センター事務部大学史編纂課
発行:学校法人中央大学
2010年11月13日刊行

この本は、中央大学百年史編纂に際して学員向けに執筆してきた本学の歴史に関わるさまざまな記事をもとに、創立者18人や各界で活躍した代表的な学員のことなどを新たに取り上げています。125話を21章の中に散りばめた本書を手にとりて気軽にご覧いただければ幸いです。



創立125周年記念事業募金

2011（平成23）年9月末日までお申し込みを承っております。

2001（平成13）年10月から10年計画で始まった創立125周年記念事業募金もおかげをもちまして残すところ、あと1年に満たなくなりました。

11月13日（土）には記念式典も成功裏に終わることができ、これもひとえにご芳志くださった皆さまの温かいご支援の賜物と大学関係者一同心より感謝いた

しております。

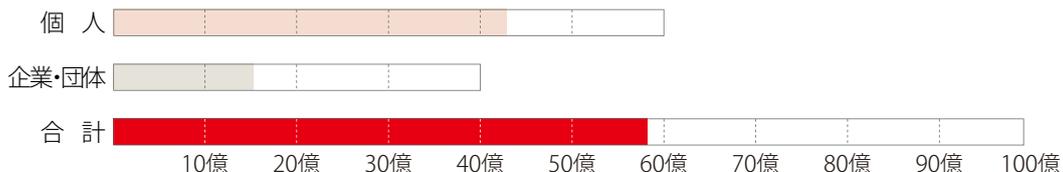
募金を始めてからの9年間は日本経済を取り巻く環境が一層の厳しさを増した期間でもありました。

にもかかわらず、11月13日（土）記念式典当日時点で現物寄付も含めて59億6千6百万円余の心温まるご寄付をいただき、誠にありがたく、厚く御礼申

し上げます。

創立125周年記念事業は大学と学員が一体となって推進する大事業で、その成就是学員の皆さまのご理解・ご支援なくしては到底できるものではありません。計画実現のため、今後とも学員の皆さまの更なるご理解と一層のご支援をお願いいたします。

募金額／目標額 (2010年11月13日現在)



ご寄付のお申し込み：

創立125周年記念プロジェクト推進本部事務局(募金)
TEL:042-674-2442 FAX:042-674-2435
E-mail:c125@tamajs.chuo-u.ac.jp

インターネットからのご寄付お申し込み：

中央大学Webサイト(www.chuo-u.ac.jp)より、
→卒業生の方へ →(右バナー)創立125周年記念プロジェクト
→(右バナー)インターネット募金

125ライブラリー（第1期刊行）

2011年3月刊行（予定）

『125ライブラリー』について、2010年度は第1期として『学員時報』等を通じ、広く執筆者の公募を行った結果、学員等を含め総点数31件の応募がありました。「125ライブラリー」出版編集委員会で出版の趣旨等に照らし検討した結果、原稿の完成した以下の6点について、中央大学出版部から年度内の刊行をめざし、さらに数冊について執筆者と刊行へ向けて作業を進めています。

この企画は、ジャンルを問わず、高校生以上の一般の広い読者を対象とした、

読みやすく有益な著作を想定し、装丁は四六判、ソフトカバー、200頁程度とし、高校の図書館等へ寄贈するほか、一般書店を通じて、市販いたします。

『125ライブラリー』は、次の時代を視野に、本年度を起点として、2011年度以降も継続的に順次刊行していく予定です。ご期待ください。

刊行図書	(順不同、書名は仮題)
改革派詩人が見たフランス宗教戦争 —アグリッパ・ドービニエの生涯と詩作—	高橋 薫 著
今を生きる若者の人間的成長	都筑 学 著
発掘でさぐる縄文の暮らし —中央大学の考古学	小林 謙一 著
旅をして、出会い、ともに考える	新原 道信 著
英語史で解きほぐす英語の誤解	堀田 隆一 著
超然トシテ独歩ス —英吉利法律学校の法学講義	菅原 彬州 著修

<以下続刊>

お問合せ先：中央大学出版部（電話：042-674-2351）

「式典報告と感謝のつどい」全国7会場で開催

11月13日に举行された中央大学創立125周年記念式典は、会場収容能力の面からすべての学員の方々に参加いただくことは不可能であるため、125周年記念行事の一環として、地方在住の学員の皆さまへ式典の開催状況を含めた記念行事の概略を報告し、同時に125周年事業に貢献いただいた学員の皆さまに感謝の意を表するとともに、学員・地域のネットワーク形成促進と各地の学員会組織の活性化をはかるため、学員会の主催で下記の通り「式典報告と感謝のつどい」を開催いたします。

北陸ブロック
新潟・新潟中越・富山県・石川・福井の各支部
2011年2月5日（土） 11:00～15:00
ANAクラウンプラザホテル金沢
金沢市昭和町16-3
TEL:076-224-6111

九州・沖縄ブロック
北九州・福岡・佐賀県・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各支部
2010年11月23日（火・祝） 11:30～14:30
エルセルモ熊本
熊本市世安町155
TEL:096-362-3390

中国・四国ブロック
鳥取・島根・岡山・広島・呉・尾道・福山・山口・関門・徳島・香川・愛媛県・高知の各支部
2011年3月5日（土） 11:00～14:00
ホテルグランヴィア広島
広島市南区松原町1-5
TEL:082-262-1111

北海道ブロック
札幌・函館・小樽・旭川・室蘭・釧路・帯広の各支部
2010年12月2日（木） 17:30～20:10
京王プラザホテル札幌
札幌市中央区北5条西7-2-1
TEL:011-271-0111

東北ブロック
青森県・岩手・宮城・秋田県・山形・山形庄内・福島・会津・郡山・いわきの各支部
2011年2月27日（日） 11:00～15:00
ホテルメトロポリタン仙台
仙台市青葉区中央1-1-1
TEL:022-268-2525

中部ブロック
長野・長野県中信・東信・飯田・諏訪・岐阜・静岡中部・遠州・静岡東部・名古屋・東三河・三重の各支部
2011年1月22日（土） 11:00～15:00
キャッスルプラザ
名古屋市市中村区名駅4-3-25
TEL:052-582-2121

近畿ブロック
滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各支部
2010年12月11日（土） 11:00～15:00
大阪新阪急ホテル
大阪市北区芝田1-1-35
TEL:06-6372-5101

お問い合わせ：
創立125周年記念プロジェクト
推進本部事務局
TEL:042-674-2433